

研究タイトル： 市民科学による地域文化資源の継承支援

氏名：	楠瀬 慶太／ KUSUNOSE Keita	E-mail：	kkusunose@kochi-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(学術)
所属学会・協会：	地方史研究協議会、棚田学会、GIS 学会、デジタルアーカイブ学会、歴史地理学会、日本民俗学会		
キーワード：	市民科学、地域資料、地名、村落景観、生活誌、地域づくり、移民史、土器・陶磁器		
技術相談 提供可能技術：	・地域文化財全般の記録・保存・活用(歴史・考古・民俗・地理) ・GISを用いた文化財防災やリスク把握 ・市民団体の組織運営のノウハウ提供 ・自治体史・地誌の編集・執筆 ・高知県など過疎地域が抱える社会問題の分析		



研究内容：

◆研究概要

大学で学んだ総合資料学(歴史学、地理学、考古学、民俗学)の知識と、16年間の新聞記者としての経験を活かして地域文化資源の継承支援に取り組んでいます。文化継承や地域づくりには、地域の「自立」と「自律」が大切です。そのために市民の皆さんとともに活動し、必要な専門的知識やノウハウを社会実装していく市民科学(シチズンサイエンス)という研究手法を採用しています。課題先進県と呼ばれる条件不利地域の高知県で実践されている活動をモデル化し、全国の地域に実装していくことを目指しています。

◆実践研究の例

- ・「高知地域資料保存ネットワーク」による地域資料の継承支援(11年間で100件5千点の資料を記録保存)
- ・「高知県の学校資料を考える会」による市町村の学校公文書等の保存支援(土佐清水市、室戸市、越知町など)
- ・「奥四万十山の暮らし調査団」「いしはらの里・むかしを語る会」等による大字誌作成の支援(10年間で約40集落作成)
- ・「満洲の歴史を語り継ぐ高知の会」による移民史の語り継ぎ活動(記録集7冊刊行)

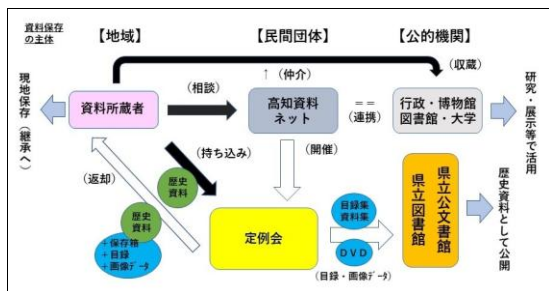


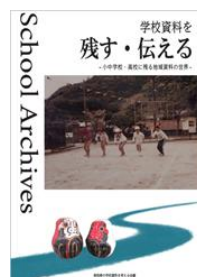
図1 高知資料ネットモデルの活動概念図



写真1 市民団体による地域資料の記録保存活動



写真2 市民団体との地域調査(いの町)



編集・執筆を手掛けた主な出版物